

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	さくら－む新琴似			
○保護者評価実施期間	令和7年 9月 15日		～	令和7年 9月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数)	14名
○従業者評価実施期間	令和7年 9月 15日		～	令和7年 9月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 11月 5日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の療育経験年数が5年以上の職員が5名配置されているので、職員の経験が豊富である。また、職員の入れ替わりが少ない。	経験豊富な職員が多いことから、数々の事例をもとに、一人一人の発達に臨機応変に対応することができる。	今後も引き続き経験豊富な職員を配置し、より高い専門性を持った事業所を目指していく。
2	SST(ソーシャルスキルトレーニング)を行っている	小グループで児童に必要なスキルを身に付けるために、日々プログラムを日替わりで組みながら実施している。	プログラム内容が偏ったり、マンネリ化しないために、職員の研修や勉強会などを行いながら、職員のスキルアップに努める。
3	参観日を定期的に行っている	参観は、働いている保護者も出席しやすいように、期間を長めに設けて行っている。	今後も引き続き継続しながら保護者に日頃の様子を見ていただく機会を設ける。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースが限られている為、運動活動の設定が難しい	出来る限り室内を有効活用出来るように、必要以上に物を置かないようにしたり、空間を有効活用している	外遊びの機会を増やしたり、空間をあまり使わない運動遊びの導入を工夫していきたい。
2	お便りやアニュアル、訓練について保護者への周知が不十分。	避難訓練は実施したことをお便りで報告したが、それでもまだ周知できていないところがあった。	改めて、別の周知機会を検討、工夫していく。年に1回別紙のお便りなどでまとめて全保護者に報告するなど。
3	地域外部などの交流活動を行っていない	初めての場所や人に対して苦手な子もいる事から、活動が難しい事がある	今後は、児童の発達を考慮した上で、参加可能な機会があれば参加出来るようにしたい。